

横浜市立岡野中学校

平成28年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

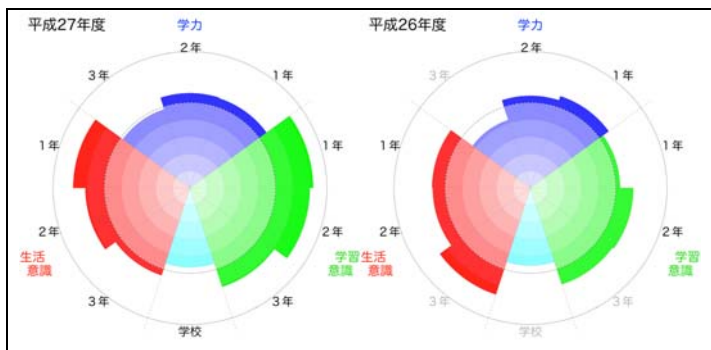
- (1) 学習習慣が身に付いていない生徒もおり、教科書レベルの基本的な内容を定着させる必要がある。
- (2) 配慮を要する生徒、授業が理解できない生徒へ対応した、支援・指導体制の構築が課題である。
- (3) 外国籍生徒や日本語指導を必要とする生徒も存在し、その支援を強化している。
- (4) 教員は授業改善に向けて意欲をもって取り組んでいるが、今後、全教科等で焦点化したテーマを設けるなど組織的な体制作りが必要である。
- (5) 地域と学校の協力体制は良好であり、学習ボランティア等学力向上に向けた具体的な取組をさらに計画的に充実させて行く必要がある。

2 中期学校経営方針「確かな学力」達成目標

学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

- 授業力の向上を常に図り、家庭学習（自発的学習）の充実を実現し、学びの連続性を持たせた学力の向上につなげることで、主体的・能動的な学習への取組ができる生徒が育っています。
 - ・学ぶ喜びを感じられる授業づくりを進めています。
 - ・基礎基本を定着させるとともに、考える力や表現する力が育っています。
- 教育相談などの個別指導の支援を充実させ、組織的に個に寄り添える指導を実践し、生徒個々の夢を実現させています。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成28年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

教科の学力は昨年度に比べ全般的にやや向上している。(27年度)
生活意識、学習意識は市平均を大きく上回っており、1学年はさらに向上している。
分析チャートを見つると教科や学年によって差が生じている。学力向上に向けては、個々の教師の授業の工夫だけではなく、教職員全員による組織的な取組が必要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：言語についての知識・理解・技能を身につけ、豊かな言語表現で書く力の習得に課題。
- 社会科：新聞やテレビ等のニュースや番組に関心を持っているが、知識・理解・技能の習得に課題
- 数学科：生活の中で活用しようとしている生徒が多いが、基礎・基本的な知識理解や技能の定着が課題。
- 理科：全学年とも理科が好きな生徒の割合が高く、それを科学的思考力の向上につなげることが課題。
- 外国語科：英語が生活に役立つと考えている生徒は多いが、理解・表現能力の向上が課題。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

生徒は各教科について学習意識は高く、教科の学習が大切、役立つ等、積極的に取り組もうとする回答が市平均を上回っている。学力層を見ると全学年ともに全教科ともにA・B層の生徒が市平均をやや上回り、学力が安定してきた。また、家庭学習の状況では、3年生で1日の家庭学習2時間以上の生徒が市平均とほぼ同じだが、1、2年生では上回っている。昨年度に比べ、家庭学習の習慣が定着し、学力に結びついてきていると考えられる。生徒に合った学習指導をこれからも工夫し一層充実させていきたい。最後までやり遂げた経験や自分のよいところがあるなど、自己肯定に関する回答は、3年生は市平均よりやや低く、1、2年生はほぼ同じである。より主体的・能動的な学習への取組ができるようになれば、達成感や自己肯定感につなげることができるであろう。また、読書を30分以上する生徒は市よりもかなり多く、学校図書館に行くことが好きな生徒も市を大きく上回っているため、読書指導を一層充実させて読解力の向上に繋げていきたい。生徒の意欲を活かした学ぶ喜びを感じられる授業づくりも工夫していきたい。

4 平成28年度 目標と具体的方策

平成28年度 目標

教員の授業力の向上を図り、「学ぶ喜びを感じられる授業」づくりを進め、生徒の学習意欲と学力の向上を図る。基礎・基本のより確実な定着を図るとともに、読書活動の充実を図る。

(1) 学校組織としての共通の取組

○ 学ぶ喜びを感じられる授業の確立

生徒の実態を把握し、主体的・能動的な学習への取組ができる生徒を育成する。単に学習内容を伝える講義的な授業のみでなく、言語活動を重視した授業を心掛け、自分の考えを相手が納得できるよう説明できる表現力を身につけさせる。ITの授業などで、個に応じた指導を充実させる。

○ 教科指導の充実

学習の基本となる教科の充実を図るために、教科会で指導における内容や方法について共通理解を図る。授業公開を含む研修を設定し、学力向上に向けた各教科の取組を情報交換する場を設ける。

○ 学習習慣の向上

ノートの使い方やレポートの書き方などを工夫させたり、反復によって効率よく身に付く学習内容を宿題として位置付けたりして、家庭学習の充実を図る。学校図書館の活用を各教科・領域で具体的に計画し、実施する。朝読書を通して読書活動を充実させる。

(2) 学年・教科等としての取組

○ 学ぶ喜びを感じられる授業の確立

国語

- 漢字・語句等の基礎的事項の反復練習を継続的にを行い、小テストなどで定着度を把握させる。
- 単元学習のまとめに、発表や作文などの言語活動を取り入れ、豊かな表現能力を育む。

社会

- 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を重視する。
- 社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する。

数学

- 基礎・基本的な学習内容を計画的に反復練習させ、小テストなどをおこない、定着度を図る。
- 少人数指導及びT T授業により、個に応じた基礎学力の充実を図る。

理科

- マイノートや問題集を活用し、反復練習により基礎力を定着させる。
- 実験結果や考察の発表を増やし、表現力を育む。

音楽

- 生徒が自ら考えより良い音楽表現を身につけられるよう、範唱を通し問いかけ、選択させながら歌唱・器楽活動を行う。
- 合唱コンクールでは、互いの発表を聴き、その良さを深められるよう言語活動との関連を図る。

美術

- 年間を通じて、クロッキーに取り組み表現の基礎力をつけると共に、目標達成の手立てを学ぶ。
- 生徒一人ひとりが意欲的に表現主題を追求できる魅力的な題材を設定し、学校行事との関連も図る。

技術・家庭

- 小学校や他教科での既習事項や生活体験・興味関心を把握し生徒の資質・能力を踏まえ題材設定を行う。
- 実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自らが生きる力を培えるように題材を設定する。

外国語

- 単語等の反復練習や小テストにより、基礎力を定着させる。
- AETと連携し、英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う活動を充実させ、活用力を育む。

特別活動

- コミュニケーション能力を育みよりよい人間関係を築かせるために、行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

総合的な学習の時間

- 校外学習・職業体験・福祉体験・スキー教室・修学旅行等の体験的な学習を通して、集団の中での役割を果たし、仲間との協調性を育む。
- 体験への事前・事後学習レポートをまとめることで、学習内容を整理分析し自己の考えを深める。

個別支援学級

- 挨拶や返事等を習慣づける。
- 個別の指導計画に基づき、個々が学校集団の一員として、互いを尊重し、問題解決できる力を育てる。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。